

認知症の人への対応力向上のために

交番編



家に帰る道筋を忘れてしまい
警察署に保護される。



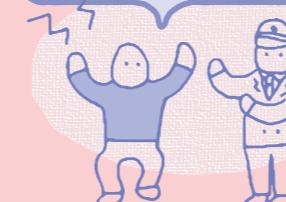
落ち着かせるようにゆっくりと情報を聞き出す。手がかりとなるものを探す。
ご家族に徘徊登録を勧める。

万引きする。



認知症によるものかを確認。
場合によっては万引きの事実を大げさにはしない。
家族への連絡など状況のわかる人へつなげる。

何かわからないが怒っている。
不安げで怯えている。



落ち着かれてから優しく傾聴する。
場面の状況などから、話の手がかりをさがす。

徘徊の可能性の届け出を受けていた人がフラフラと歩いているのを見かけた。



さりげなく話しかけて、交番で保護する。
事前に打ち合わせていた連絡先へ連絡する。

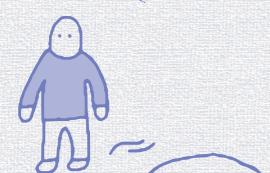
自宅



物を盗られた、嫌がらせをされたなどの通報が続く。

認知症によるものかを確認。
家族への連絡など状況のわかる人へつなげる。

ここがポイント!



他の機関と違って、さりげなく、安心できるような対応が難しい現実がありますが、地域の方と顔見知りになつていただけるとありがたく思われます。

徘徊に関して

ご本人が保護された時にもっとも有効なのは、ご本人の持ち物からお名前、連絡先がわかることです。名前は、衣類やくつなど、身につけるものへの記名、バック内に連絡先を書いたものを入れておく、キーホルダーに電話番号が記載してあるなどのケースもあります。

財布やポケットに連絡先や運転免許証明書を入れていただくなど、ご本人の持ちやすいスタイルで手掛かりとなるものを持っていただくことが大切です。

ご家族などと話し合って、ご本人のスタイルに合わせて、工夫をお勧めしてください。GPS携帯など、持ち慣れないものは、徘徊の途中で捨ててしまうこともあります。ご本人の生活に合わせた選択が大切と思われます。

交番窓口



道を尋ねるがどこに行きたいのかはっきりしない。

手がかりとなるものを探す。
連絡先がわかれれば、必要に応じて家族などへ連絡し対処。

× 口頭のみで対応。

被害妄想の訴えを延々とする。

訴えを傾聴する。
必要があれば地域包括支援センターなどにつなげる。

× 聞き流す。

紛失届け(忘れ物)が何回も提出される。

共感する態度を示す。
必要があれば地域包括支援センターなどにつなげる。

事実でない訴えがある。

本人もしくは家族の了解を取り、対応方法や連絡先などについて他機関と連携体制を築く。

× 事実でないことを説得する。

安心させる態度で傾聴し、ヒントを探る。
連絡先が衣服に書いてあつたり、鞄にメモが入っている場合もあり、本人の了解を得て確認する。

保護時、自宅など、連絡先を伝えられない。



何度も同じ行き先を尋ねて来られる。

地図などを使い、手がかりや目印となるようなものを一緒に確認しながら説明する。

警察署などで一時的な混乱が見られ興奮・不穏状態となる

心理状態が安定するまで傾聴などを行う。

亡くなった両親の安否を心配し警察署に相談する。

他のことに注意を向けるなど、心理状態が安定するのを待つ。

× 説得して理解させようとする。

警官の対応に對して怒りの感情をぶつける。

